



森ボラ 通信

第104号 2011年 1月20日発行

NPO法人北海道森林ボランティア協会

URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F

Tel (fax.): (011)816 - 7010

E-mail: hshinrinv2002@nifty.com



新年あけましておめでとうございます



理事長 横山 清、専務理事 酒井和彦

北海道森林ボランティア協会の設立は2002年6月ですから今年は9年目になります。現在の会員数は約110名ですが当初の森林保全セミナーから続いている方は7名ほどしかいませんから、うまく新陳代謝していると思います。

2004年の台風災害、2008年のサミットなど環境に社会が注目する刺激がある年は入会者も増える感があり、今年の世界森林年にも期待されます。

さて昨年は植栽本数が9,500本と会としては記録的な本数を達成するとともに内容的にも自然更新優先の補植的手法の技術も身に着けました。また放置林の広葉樹二次林における受光間伐を続けて9年目になります。結果がすぐに見えないのが森林ボランティアの活動といわれますが、植えた後の管理も含め続けることこそ会の使命と思います。

一方どんな組織でも年数が経つと必ず淀みが出るといわれます。年数に関係なく進化したいものです。

来年は10周年ですからどんな記念事業がいいか皆さんの夢をふるってご提案の程お願い申し上げます。

■ トピックス

◆ 1月セミナー 「山菜の王者行者ニンニクの話」

種からの人工栽培の育成技術等についての研究成果

講師：当協会員 村上孝三氏

(1月13日(木)参加者20名)

事務局の勘違いで会場確保ができていまして、急遽1階のボランティア研修室を使わせていただきまして、狭い中での勉強会でしたが、講師との距離が近いことで、話がよく聞こえるし、村上講師の熱意とあいまって親密感が醸し出されたような気分でした。森



の山菜としてわが会員は親しんでいます。人工栽培となるとまた別物で、畑で野菜を栽培する以上に細かい手入れが必要であることが強調されました。講演の趣旨は、行者ニンニクの疲労回復、動脈硬化予防、冷え症等についての薬用効果もあり山菜としての人気は抜群であることで、天然生の枯渇が現実となっていることから、枯渇対策として「種からの人工栽培技術について」の講演でした。興味がおありの方は資料をあげますので事務局に連絡ください。(記 高野)



◆ 物置小屋落成

1月14日16名が参加して物置小屋の落成を祝いました。朝礼KY体操のあとテントなどの雪下ろしに精をだし、昼食にアルコールはないが湯沢さんのギョウザ鍋で腹一杯となりました。

ここ澄川の札幌市環境林には4つの古いポンプ小屋があり、そのうち2つを私達が物置として使っております。それがつぶれそうになり代替として作ったものです。杉本さん寄贈の木工工具置き場が主目的です。

昨年1月からの除伐のときにφ100ほどのミズナラを小屋の柱用にL3.3mに切り出して皮剥きし乾燥加工して使いました。

また壁板は風で倒れたシラカバ材を製材機で木道用に板を作った背板をバーナーで焼いて使いました。しかしながらこれだけではならず10.5x3.3mの角材、ボルトナット類や野地用ボード、コンパネ、屋根材、明り取りの波板など購入品が思いのほかかかってしまいました。内寸で3x3mですから5畳間です。隣の古い小屋は何時つぶれてもいいようになりました。四隅の柱はまずL1.8mの杭を地面に打ち込み1/2”ボルト2本で継いであり杭が腐ったら交換できるようにしてあります。遠い先に誰か建て替え願います。

この小屋の最大の特徴は設計図なしに皆でわいわい作り上げたことだと思います。テントにする案、勉強部屋を買う案、温室ビニールハウスなどでましたが単なる労働提供でなくわいわい作ったことで達成感が得られました。(記 酒井)



作業前のKY体操

◆ 2011年澄川除伐について

私たち森ボラのホームグラウンド的存在である澄川都市環境林は、薪炭木伐採後の放置された過密の二次林で、火山灰地の上にシラカンバ、ミズナラ、クリ、ホオノキ、シナ、イタヤ、サクラなどがわれ先に他を制しようと伸びることに精力を使い根の成長が疎かになったため風・雪で倒れやすい林である。

協会の設立当初から巨木の森を目指し2本仕立ての除伐を行い、受光量を増やす施業を行いほぼ第1期分は終了していたが、一昨年全体で約40haに拡張され引き続き拡張部分の2本仕立ての除伐に取り組んでいる。(注、下草にササやクズが生えている林では、一気に1本仕立てにするとササ・クズだけがはびこり自然発芽や稚樹の生育を阻止し森林の更新を阻害させる)

2011年の冬季は拡張部分の南西部を主体に除伐を行い、夏季はエゾヤマザクラ保全地区、更に樹木園を目指す地区の稚樹の確保とササ刈を行いながら除伐を進めて行く。

2004年の18号台風の風倒木の処理も同時に行っているが、風倒木を放置した場合の比較用と急斜面で作業上危険な場所を風倒木保存地区として3ヶ所(3ページA, B, C)設定、説明板を設置しその存在を明確にして保全して行く。

駐車場北側の0.2haほどの窪地はササにより木が生えないので植栽する。

また、自主規制ではありますが、湿原生物を保護するため、谷筋には入らないようご協力ねがいます。(注、キノコの栽培地区は除く) (記 酒井、和田)



歩道右区域が保全区→

澄川風倒木保存地区 (2011. 1. 20)

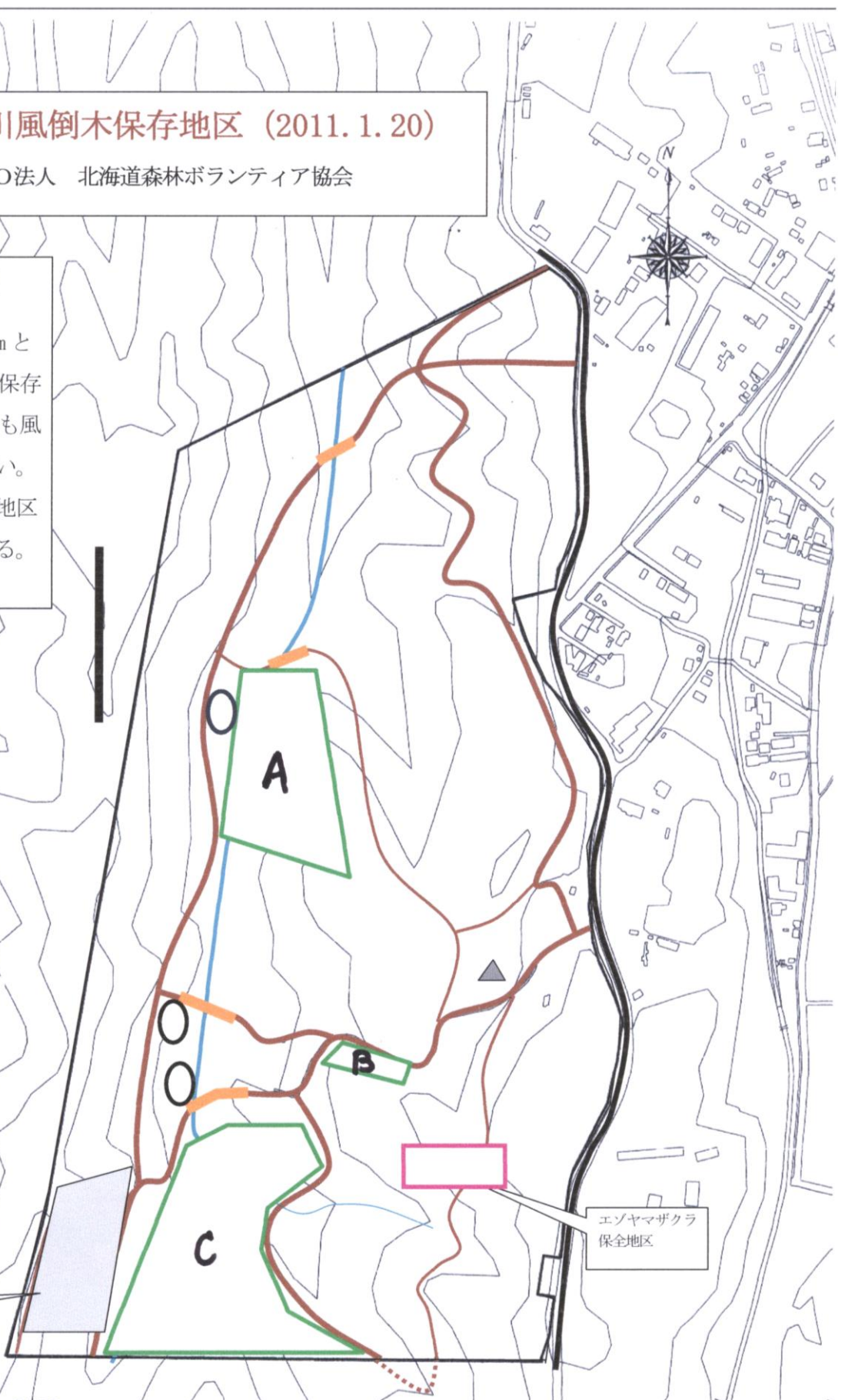
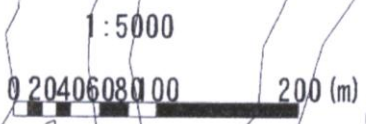
NPO法人 北海道森林ボランティア協会

協会自主規制

水路沿い幅30mと
 の地区は保存
 地区として間伐も風
 倒木処理もしない。
 但しキノコ栽培地区
 は例外とする。



2011年
間伐計画



エゾヤマザクラ
保全地区

図面名称	澄川都市環境林	図面番号
縮尺	1 : 5, 000	/

■ 今月の幹事会

出席者：市山、荻田、酒井、佐野、高野、津金、釣井、西野(悌)、矢澤、山中、和田

審議および決議事項

- 1 12月の作業実績⇒確認
- 2 2月スケジュール⇒**微調整**
- 3 2011年度年間作業計画⇒計画提示
- 4 澄川保全区域⇒酒井、和田案確認
- 5 冬期学習会の予定⇒2月東京農大 小林万里先生(北方四島の生物達)
3月環境科学研究センター 宇野裕之先生 エゾシカの話
- 6 組織改革について⇒**代表幹事、事務局長および業務、広報・啓蒙、渉外等の委員会を設置し、担当者の輪番制**を目指して内容の検討を開始、新年度よりの実施を目標としています。



■ おしらせ

◆ 2月セミナー

2月21日(月) 13時30分から ラルズビル3階会議室(豊平区平岸1条1丁目)

① 講師 東京農業大学 小林万里先生 「北方四島のいきものたち」

◆2011年国際森林年 道民による道民のための「森林フォーラム & コンサート」

2月26日(土)13:30~16:30 かでる2・7ホール 参加費は無料

①森よ還れ 歌唱/神山慶子氏

② 基調講演 「神々のやどる森」/北海道神宮権宮司 井澤正裕氏

③ 森を語り、奏でる

/北海道神宮権宮司 井澤正裕氏

/旭川医科大学特任講師 住友和弘氏

/北大観光学高等研究センター長 石森秀三氏

/北海道銀行広報 CRS 室長 沼田和之氏

/オカリナ奏者 斉藤かすみ氏

司会/HBCアナウンサー 渡辺陽子氏



◆新入会員 関根崇敬、小田拓治、^{もてき}茂木勝恵

■ 活動履歴

活動日	行 事	参加人数	活動内容
1月20日(木)	澄川	8名	冬期除伐
1月14日(金)	澄川物置落成祝い	16名	水餃子鍋の会
1月13日(木)	セミナー	20名	他に安全講習、会員例会
1月11日(火)	幹事会	11名	1月定例